

3

普段何気なく見ている、建築物やそれらがつくりだす街の景色。それらは、どのように今ここに存在するに至ったのだろうか。背景にある風土や歴史、構造、そして関わる人々を辿ることでレントゲンをあてるように街をのぞいて見る、街角解体図。解像度があがると、街の景色がちょっと違って見えてくるかも。

話し手：一級建築士事務所 株式会社ティーハウス建築設計事務所

槻橋 修、槻橋 久仁子、古田 瑛子

聞き手：株式会社KUUMA 濱部 玲美(執筆)、株式会社文化工学研究所 北川 浩明

写真：東遊園地 ©yosuke ohtake、仙臺緑彩館 ©Takumi Ota

土地の声、人の声という目に見えないものも頼りに描く設計図

2023年4月にリニューアルした、神戸の中心部に位置する2.7ヘクタールの都市公園「東遊園地」。神戸ルミナリエや阪神淡路大震災1.17のつどい等の会場として多くの人を迎え入れてきただけでなく、毎週土曜日には神戸近郊の生産者が集まるファーマーズマーケットの場となったり、様々な年齢の人々が思い思いの過ごし方ができる

市民の生活に寄り添う場でもある。そんな東遊園地を、市民有志の様々な実験や活動とともに歩み、それらを頼りにデザイン・設計を行ったティーハウス建築設計事務所に、設計図を引くまでに会った人々やそこにある思想を伺った。

実験と学びの積み重ねで 場所はもっと思いもよらない使い方へ

リニューアルオープンしてもうすぐ2年になる、東遊園地。憩いや遊び、仕事、食事、様々な過ごし方ができる公園は、訪れるたびに違った顔つきを見せてくれる。また、様々な仕掛け人が旗を振り、多種多様なイベントが開催される場所へと成長している。

設計する時点でそれらを想定していたかという、そうとも限らないと話すティーハウス建築設計事務所の槻橋修さん。東遊園地が現在の形に至るまでをお伺いすると、リニューアル完成の8年ほど前の2015年まで遡ることになる。

事の起こりは、市民有志（現在の公園運営者）による発案であった。都心の活性化のためには東遊園地が市民のアウトドアリビングとして認知されることが重要で、その効果は周辺不動産価値の向上で測られるという仮説のもと、様々な協議を経て、2015年に神戸パークマネジメント社会実験実行委員会が立ち上がり、神戸市役所が共催するかたちで、社会実験を重ねていくに至った。

理想的なプロジェクトには、デザインや設計と同等か、それ以上に場を運営する人たちのコンセプトの持続と発



展が不可欠だと考えるティーハウス設計事務所は、東遊園地を起点に沸き起こった市民による着想や実行を応

援する形で、実行委員会のいちメンバーとして関わりあいをもつこととなる。ここから、市民・運営事業者・行政・企業が一体となり様々な検討や社会実験を重ねていくことになるのだ。

神戸市管理の都市公園のあり方を考えるべく、2015年から行われた社会実験は、6回にも及ぶ。まだ芝生がなかった東遊園地に120平米の天然芝を養生して市民に本を寄贈してもらったアウトドアライブラリーと仮設カフェを設置し、同時開催でファーマーズマーケットを行い、利用する人の流れを観察したりと長期的な挑戦から始まり、ボランティアスタッフも巻き込みながら、広報活動や各種イベントの開催など、持続可能な公園を育てる仕組みづくりの検証を行っていたのだという。

また、東遊園地で数々の社会実験を行ってだけでなく、外からのインプットの機会も大切にしていた。その題材のひとつが、リバブルシティ（住みやすい都市）というあり方だ。未来の公園について真剣に考える有志が集まり、そのメンバーとして槻橋修さんも参画して、一般社団法人 リバブルシティイニシアティブが発足された。

市民や利用者たちを巻き込んで一緒に場所を作って行く手法やそのプロセスである『プレイスメイキング』に着目し、イギリスのエコノミスト誌が発表する「世界で最も住みやすい都市ランキング」で2010年から7年連続で1位を獲得したオーストラリアのメルボルンを何度も訪れた。なかに、プレイスメーカーと呼ばれる役割があり、それらは、行政や不動産屋、建築家だけでまちづくりを行うのではなく、プロジェクトの初期段階から様々なステークホルダーの人たちを巻き込み、関係者それぞれがwin-winの関係になるよう働きかけるのだ。

プレイスメーカーの存在やそのようなプロジェクトのあ



り方はまだまだ日本にはない事例だと、一般社団法人リバブルシティイニシアティブとして、オーストラリアやドイツなどからプレイスメーカーなどの講師を迎えたりリバブルシティフォーラムを開催したり、興味のある人たちを集めてスクーリングを行ったりと、積極的に学びの機会を重ねていたのだという。そのような市民の熱心な探求に長く伴走し続けた時間や体験も、すべて東遊園地のデザイン・設計に活かされているのだ。

次世代の都市公園として市民のアウトドアリビングとなることを目指し、公園再整備と同時にPark-PFI 施設が計画され、その設計図が描かれるずっと以前から実験と学びのプロセスを着々と重ねていたティーハウス建築設計事務所。それにより、公園を訪れる人それぞれの過ごし方を創造的にサポートする機能が盛り込まれ、建物内部が快適に過ごせる環境であると同時に、公園を利用する人々が、都市公園での新しい過ごし方を自身で見つけられるような仕掛けが、建物の周囲に散りばめられているものとなったのだという。

東遊園地のプロジェクトは、設計図が描かれた8年も前から長くコンセプトを共有してきた多くの素敵な関係者たちとのつながりがあったからこそ生まれた、幸福な事例なのだと話してくれた。

下から滲み出てくるものが 景色をつくる

ティーハウス建築設計事務所が、東遊園地において実験と学びを重ねた背景に、槻橋修さんが大学院の頃に行ってきた集落調査の経験がある。東京大学での大学院時代に建築家 原広司さんの研究室で、西欧近代の建築とは異なる伝統的な方法でつくられた日干し煉瓦造りの7階建家屋があるイエメンや一夫多妻の婚姻率が高いマリ、アフリカ、南米など世界20カ国以上の僻地を冒険のように巡り調査を行った。



「いったいどうしてこうなるんだろう」というような驚くべき景色に世界中で出会う日々。ひとつの建築だけではなく、都市という単位でも。

その解につながる道標は、現地にあった。現地の人々の生き延びるための様々な知恵が集まり社会を成立させていった結果、生まれてきた景色なのだ。遠く離れた場所でも似たようなものが出てきたりと数多くの集落を見て比べていくと、その社会のなかで、その場所ならではの建築を作る知恵のようなものを感じることができるのだという原先生の教えを受け、それぞれに異なる文化の中から滲み出るいろんな知恵が建築となり、集落として立ち上



がってくることを実感したのだという。下から滲みでてくるものが、面白いのだ。

理想を掲げた設計図だけではたどり着けない、数々の驚くべき美しい景色を目の当たりにしてきたからこそ、そこにある土地の声や人の声に耳を傾けるプロセスに重きをおくようになった。

簡略化して整理して 大きな流れを見るという技術

土地の声、人の声に耳を傾けて生まれたプロジェクトのひとつとして、東遊園地と同時期の2023年4月に開館した宮城県仙台市にある青葉山公園の整備に伴い計画された公共施設『仙臺緑彩館』の建築設計にも話が及んだ。もともと仙台藩の初代藩主である伊達政宗の重臣として、戦国時代から江戸時代前期にかけて活躍した片倉



宮城県仙台市に生まれた
『仙臺緑彩館』外観

「建築プロジェクトは、未来
に対して何か投資するものだ
から」。そう話してくれた言葉

小十郎の屋敷であった歴史ある場所。プロジェクト初期
から「場所を育てる」という意識のもと、市民が参加する
デザインレビューやワークショップを開催しながらデザイ
ンを検討するプレイスメイキングを行ったという。

インパクトの強い歴史的背景から、市民のな
かからも武家屋敷を再現したいという声も聞こ
えてきたそうだが、表層的な形をトレースしても
場所というものの価値が大きくならないと、今こ
の土地で感じる声を集める日々だったという。

「ここを歩くと向こうに、広瀬川の岸壁が見え
て仙台の町が見える」「太陽がこっちから気持ち
よく入ってきて、庭が光って見える」。そんな声
が市民から漏れ聞こえてきたことから、見た目
の形が一緒にならずとも、体験としてはトレース
できるのではと、片倉小十郎屋敷で用いられていた6尺3
寸という、当時の武家屋敷としては珍しいモジュールを回
廊や情報ラウンジ等に取り入れた。昔の人が歩いたであ
ろう空間の雰囲気や、追体験できる設計となっているの
だ。

そんなふうに場所を価値化する行為は、誰しもできる
動物的な感覚なのではないか、と語る槻橋修さん。大規
模で複雑な建築計画の際にも、小さく抽象的な声を様々
な方法で汲み取り、分析を重ね、手に取れるような身近な
ことからパラフレーズし、みんなで一緒に勉強する機会
と捉えているという。それが、これから起こり得る成長や
変化を思い描くことにつながるのだ。

に、いつか遠い未来、そこには存在しない今の時代の声
を汲み取り、また新しい景色が生まれてくるのだらうと
想像すると、胸が踊った。普段見ている景色は、過去か
ら、そして未来へのバトンなのだ。



『仙臺緑彩館』の内観

一級建築士事務所 株式会社ティーハウス建築設計事務所



ティーハウス建築設計事務所
は建築を現代社会における文
化の要と位置づけ、住宅設計、
施設設計から店舗開発、都市
デザイン、メディア制作に至る
まで、幅広い分野で活動を行
うグループです。

兵庫会・ 支部活動

- 42- 違反建築物是正に係る覚書について
- 44- 近畿ブロック大会
- 45- 連合会全国大会(福井大会)
- 46- 青年部・女性部合同委員会
- 49- 各支部紹介 経験・知識・洞察
 - 明石支部
 - 淡路支部
 - 加古川支部
 - 神戸支部
 - 三田支部
 - 西はりま支部
 - 但馬支部
 - 阪神支部
 - 姫路支部
 - 北はりま支部